

ふれあい西本郷小 令和4年度

8・9月号

横浜市立西本郷小学校 学校だより

令和4年8月29日(月)

一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本郷小の子
キャッチフレーズ:あいさついっぱい みんながえがお 西本小

かげおくり

校長 活田 宏輔

「私は日本に生まれてきてよかった、なんて言葉を軽々しく口にできません。」今から20年以上前に初めて6年生を担当した時の子どもの言葉です。当時東南アジアにまだ埋まっている地雷で傷つく子どもたちのことを知ってノートに感想を書きました。

私が子どもの頃から、夏になると戦争に関する特集番組や映画、アニメなどが放映されてきましたが、今年は例年に比べて増えたように思います。コロナ禍を戦争に例える報道もありましたが、実際にウクライナの情勢など、世界の出来事を見ていると戦後に日本では長く続いている平和が薄い氷の上で維持されているようにも見えてきます。

小学校では6年生の歴史学習以外にも戦争を扱った教材はいくつかあります。3年生の国語「ちいちゃんのかげおくり」(あまん きみこ作)、4年生の国語「一つの花」(今西祐行作)は、保護者の皆様にもうっすらと教科書で学習した記憶があるのではないのでしょうか。担任は、各場面での心情を読み取らせながら授業を進めていきます私も校庭に出て、実際に子どもたちと「かげおくり」をやってみたり(3年)、ゆみ子が「一つだけちょうだい。」と言った意味や時代背景を考えたり(4年)したことを覚えています。しかし今、この作品をじっくりと読み返すと、限りなく重いテーマに胸が苦しくなるのを感じます。そしてその想いは、年を重ねるごとに強くなっています愛情に包まれた家族が離れ離れになることが当たり前であった戦争という背景。一人取り残された主人公のちいちゃんが飢餓でもうろうとした意識の中、空の花畑の中で家族に再会する夢を見ながら天に召されていくという結末。この夏、改めて子どもたちの教科書に目を通してみてはいかがでしょうか。

平和について考えるとき、現在女優として活躍している前述の教え子の言葉がいつも胸に浮かびます。感染症の拡大防止や異常気象への対応、加えて交通安全や不審者への対応と子どもたちの安心安全を守る取組は、どれ一つ欠かすことができません。しかし、平和という視点は決して疎かにすることなく教育活動を推進していきたいと改めて思いました。